

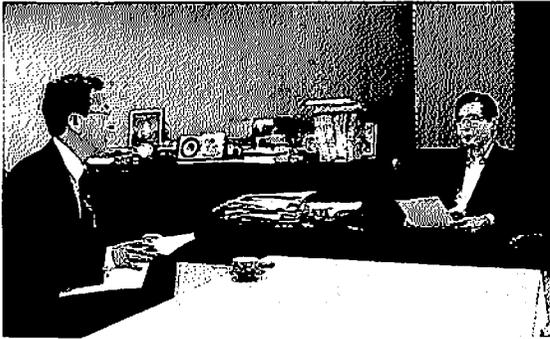
「北光寮の閉鎖のいきさつと今後の展開」

秋田大学長 吉村昇 先生との対談 (2009年9月16日15:50～ 学長室にて)

機械工学科 神谷 修 (MS51)

神谷：吉村学長，本日はお忙しい中，私ども工学資源学部の同窓会誌である「北光」で企画しました対談を快く引き受けていただき誠にありがとうございます。

吉村学長：どう致しまして。本日の対談を楽しみにしておりました。



神谷：本日の話題は，卒業生などからよく質問をうける「北光寮の閉鎖のいきさつと今後の展開」についてです。北光寮について簡単にレビューさせていただきます。北光寮の前身は，秋田鉱山専門学校創立(1910年)直後の1912年(大正元年)に53名規模で開寮されました。1935年(昭和10年)には，木造の新寮に建て替えられ，さらに1965年(昭和40年)には，当時としては近代的な鉄筋コンクリートの寮へと新装され最近まで存続しました。建設から44年の歳月が過ぎたこととなります。

吉村学長：昭和40年と言えば，私が秋田大学の3年生のときでしたが，北光寮が建ったことをはっきりと覚えております。遊びに行ったときには，田んぼの中にポツンと新しい寮が建ったという印象でした。寮費も破格の低料金で，学生支援としては，大いに役立っていました。そして，部屋長，部屋っ子の関係に代表される独特な自治寮として伝統が引き継がれ，その中から自立心旺盛な学生が育成されました。

神谷：私の場合は，確かに部屋長，部屋っ子の関係から学ぶところが多かったように思います。私が入寮したのは昭和47年ですが，既にだいぶあちこち壊れておりました。あれから，さらに30年以上が経過しておりますので古さはさらに目立っております。また，耐震構造を満たさないとすることもお聞きしましたが如何でしょうか。

吉村学長：南寮(ナンリョウ)と北寮(ホクリョウ)があって，耐震指標の I_s 値を測ったところ，北寮が限界の0.4以下(注：北寮の $I_s=0.22$)でした。これでは，地震に耐えられない。ところが，文部科学省の考え方は，「教育に直接関わる建物には，改修予算をつけるが，寮は大学自身の努力(経費)でやりなさい。」という方針です。これは今も変わりません。結局，寮改修予算はつかなかったのです。そのため，危険である北寮は，学部長時代に直ちに閉鎖いたしました。また，南寮も0.4に近い値です。(注：南寮の $I_s=0.45$)これは，地盤が悪いことと建物の老朽化により，建設当初より指標が下がったと考えられます。

神谷：手形西谷地という地名が表すように，元々湿地帯でしょうから地盤は最悪ですね。

吉村学長：当時は，本格的な杭を打つような工法ではないでしょうからおさら心配です。もし，自前で耐震改修をすれば，それだけでも3,000万円はかかります。全体を，きれいに改修するには億単位の経費が必要であるとの試算でした。それであれば，新しい寮を作ったほうが良いとの考えになってきました。平成21年6月に役員全員で，南寮を見に行ってきました。もしかすれば，南寮は，簡単な補修で一時的に使えるのではないかとの考えもありました。しかし，あまりの汚さ，劣悪な環境に驚き，秋田

大学としての改修を断念し、工学資源学部へ判断をゆだねました。工学資源学部でも、新学生寮の新築の槌音が聞こえるそばで、汚く危険な寮に学生を住ませるわけにはいかないとの判断でした。その為、南寮も閉鎖ということになります。

神谷：古さもさることながら、むしろ学生の住環境としては危険との観点から閉鎖するということですね。それでは、建設が始まった、新学生寮のことを教えてください。

吉村学長：新学生寮の構想は、全学の男子寮との位置づけです。3学部の学生と、大学院生そして留学生も受入れます。1人1部屋で130室が出来上がります。地上、6階建ての近代的なバス、トイレ、キッチン付の寮が来年3月までに完成して、22年度4月からは入寮を開始します。寮費は、まだ決まっておりませんが1ヶ月2万円程度と予定しております。専門の管理者をつけて、安全面、郵便物の管理、ゴミの分別などを担当して、安全、安心な環境を保ちたいと考えております。

神谷：工学資源学部創立100周年に間に合いましたね。100年の時を経て、北光寮は無くなりますが、1学部だけの寮ではなく、全学の男子寮へそして、国際的にも開かれた寮へと大きく昇華したと考えるべきでしょう。

吉村学長：新学生寮は130名が入居できる男子寮としての位置づけです。また、全学の女子寮は、既に60名が入居できる形になっています。まだ、不足でしょうが当面はこのような寮体制を進めたいと思います。

神谷：もう一度、南寮についてお伺いしたいのですが、これについても、北寮に引き閉鎖で今年度中に取り壊しでしょうか。

吉村学長：実は、北光寮の近くは都市計画の道路拡張部分にかかっておりますので、この拡張工事における土地売却費で取壊したいので、タイミングを待っている段階です。(工学資源学部学部長の西田真先生へ確認したところ、2010年3月31日で南寮も完全閉鎖、それ以降は取壊

し待ちとなります。)

神谷：新学生寮は、吉村先生のマニフェストに明記されている「学習者中心の大学」および「学習環境の整備」などとも関連するのでしょうか。

吉村学長：実は寮だけではなく、秋田大学総合情報処理センターの西側に11月から今年度中に3階建約1,000㎡の「学習者支援総合センター」を建設し、学生中心の学習環境をさらに整備いたします。

神谷：最後に、北光寮はその役割を終えて無くなるわけですが、その歴史は残されるものでしょうか。

吉村学長：秋田大学手形キャンパス入り口右側の、元車庫があった位置には、「秋田大学インフォメーションセンター」が建設されます。そこには、秋田大学の歴史や人の偉業を整理して展示されます。過去の人々の業績をきちんと整理して顕彰する予定です。また、OBの方々がいつ来ても集い、思い出を語る場所として建設されます。北光会の、歴史や偉人、作品などがあつたら是非教えていただければ飾りたいと思います。そして、学生や社会の人々に知らしめる必要があります。それが、私共の責務と考えております。そして、母校に対する誇りを持ってもらうのです。

神谷：今日は、「北光寮」の話から発展して、歴史を継承してゆく為のインフォメーションセンターの建築について教えて頂きました。人の歴史や功績を掘り起こし、重んじて、正確に伝えてゆくという、吉村先生の構想と実行力に敬服いたしました。どうぞお体を大切に、秋田大学の為にますますご尽力ください。



徴があります(図1)。



図1：溶媒に分散した酸化鉄ナノ粒子試料とその透過型電子顕微鏡像

研究を進めるにつれ、このような微粒子は全構成原子数に対して表面にあらわになる原子の割合が通常の大さの物質と比べて異常に大きくなるため、表面に配位する有機分子がその磁氣的性質に影響を与えていることが分かってきました。今後は、表面を保護する有機分子の種類を変えることで、表面に働く相互作用を調整

して、この機構を明らかにしたいと考えています。

ナノ粒子はこのような基礎的な興味の外、応用面でも盛んに用いられています。磁性をもつ粒子を液体状にしたものは磁性流体とよばれ、もともとNASAで宇宙開発の用途で開発されましたが、現在ではスピーカーやHDDの回転軸シールなどに実用化されていますし、近年ではバイオメディカル分野への利用も検討されています。例えば、磁性ナノ粒子に交流磁界を印加すると、ヒステリシス損失や緩和損失によって磁気エネルギーが熱に変換されることが知られていますが、癌細胞が熱に弱いことを利用して、磁性ナノ粒子を血管から注入し、癌組織に磁性ナノ粒子を集積させた後に外部から交流磁界を印加することで癌組織のみを選択的に加温死滅させる癌温熱療法が考案され研究開発が行われています。今後は基礎的な磁氣的性質の研究に加えて、以上のような工学的応用に向けた研究に取り組んでいきたいと考えています。

「北光寮特集号への投稿のお願い」

次頁の秋田大学長の吉村先生と北光寮OBの神谷先生(工学資源学部教授)の対談にもありますように、「北光寮」が本年度をもって閉鎖となり、来年度からは全学男子寮として再出発することになりました。また、前号に掲載しましたように、北光寮生主催の北光寮45周年式典と閉寮式典の開催も予定されております。

「北光」では北光寮の閉鎖に伴い、第146号(来年4月発行予定)を従来の卒業に関連した記事の他に「北光寮特集号」として北光寮に関連した内容で発行したいと考えております。つきましては、卒業生の皆様方に長い歴史のある北光寮への想いを寄せていただければと思っております。

投稿規定等は以下の通りです。多数の投稿をお待ちしております。

原稿文字数：1,500字以内(写真1枚は約200字に相当します)

原稿締切：平成22年2月2日(火)

「北光」編集委員会